

わが支部の魅力はここにあり

四国
支部

四国支部の現状報告 (四国はひとつ,, ずつ)

菊地 時夫

高知大学理学部情報科学教室

いきなりですが、クイズを。四国には文字通り4つの県があるが、何県がどこにあるか。

- ①四国の北東部にある小さな県.....(県)
- ②四国の東部を占める県.....(県)
- ③四国の北西部から西部を占める県.....(県)
- ④四国の南岸に位置する県.....(県)

クイズ番組でおバカな回答をするタレントが受けているが、タレントでなくてもいきなりこの質問に答えられない人は結構多いであろう。実際、高知空港に降り立つ予定の飛行機を迎えに行ったら、そんな便はない。間違えて高松行きの便に乗っていたという、笑い話のようなことが本当にあった。

さて、そのように外部の人にとって未知の国である四国に住む人々にとっても、実は他県の事情には疎いということがある。今、道州制ということが話題になっているが、四国各県はそれぞれに対岸の県や経済圏との結びつきの方が強いので、それぞれに別の思惑を持っていて「四国州」になるのかも怪しいと言われている。ここの合言葉は「四国はひとつずつ」と冗談に言われるくらいである。

そんな四国に情報処理学会の支部ができたのは、1989年のことである。設立当初は、支部講演会を開催すると県境を越えて、企業から集団で聴講者が来ていたということであるが、最近では5月の支部総会と9月の電気関係学会四国支部連合大会以外は、各県それぞれに企画開催されているのが現状である。

電気関係学会四国支部連合大会は、電気学会・電子情報通信学会・照明学会・映像情報メディア学会・計測自動制御学会・電気設備学会・IEEEのそれぞれ四国支部との共催で開催されているもので、情報関連では情報処理基礎、情報処理応用のほかに、計算機、通信、画像処理などがある。全体では17の分野15会場に分かれて1日の大会を開く、最大のイベントとなっている。講演

者435名の主たる学会による内訳を見ると、情報処理学会は電子情報通信学会、電気学会、IEEEに次ぐ、61名となっている。

四国支部の現状説明の追加として、学会の中核となる国立大学に情報系の学科が設立された経過をたどってみたい。

- 徳島大学工学部情報工学科(1973.4) 現知能情報工学科
- 愛媛大学工学部情報工学科(1987.4)
- 高知大学理学部情報科学科(1990.4) 現情報科学コース
- 香川大学工学部信頼性情報システム工学科(1997.10)

1989年の支部成立時点での国立情報系学科はわずかに、2大学のみであった。以上のほかに公立民営で発足した高知工科大学(1997.4)がある。

さて、本題の我が支部の魅力は、ということになるが、ここでは、「四国はひとつずつ」のスローガンに乗って、各県からのアピールを記すにとどめさせていただきたい。

■ 徳島県

徳島県内には、徳島大学などに情報処理学会の会員が在籍しており、日々情報処理技術や情報科学に関する研究に取り組んでいる。たとえば、平成19年度には、県内で情報処理学会関係の研究会を2回開催し、9月29日には電気関連学会四国支部連合大会も徳島大学において盛大に共同開催した。また、5月11日には、徳島大学工業会館において、日立コンサルティングの安信千津子氏(情報処理学会国際担当理事)を迎え、「ITが社会を支える今、ITのマネジメントへの期待—内部統制と事業継続—」とのタイトルでご講演をいただいた。平成20年度は、例年通り研究会や講演会の活動を継続するとともに、電気関連学会四国支部連合大会が2期連続して徳島大学にて開催された。中でも、本大会の全435件の発表における徳島県関係の所属機関に属する発表件数は224件に上り、半数以上を占めた。情報関連の活動は、



図-1
EPOCH@まつやま
2008 ポスター

学会のみならず、産業や教育等多面的に見られ、今後もその裾野は広がっていくものと考えている。

■ 愛媛県

愛媛における支部活動として、2007年からスタートし年1回開催している「愛媛大学プログラミングオープンチャレンジ@まつやま (EPOCH@まつやま)」をご紹介します。

EPOCH@まつやまは、(1)初級者レベルの学生にプログラミングの楽しさを経験してもらうこと、および(2)ICT系人材を育成することを目的としたプログラミングコンテストである。コンテスト参加資格は中学生から大学生までとし、入門～初級・中級レベルの若者を対象としている。参加者は2名で1チームを構成し、インターネット上で行う『オンライン予選』(すべてのチーム参加)と愛媛大学で行う『まつやま本選』(選抜された20チーム参加)という2段階形式の競技に取り組む。

EPOCH@まつやまは四国に限らず全国から参加可能なプログラミング・コンテストであり、毎年全国から140チーム以上がエントリーしている。本コンテストに関心のある読者の皆様は、Webページ <http://epoch.cs.ehime-u.ac.jp/> ならびに情報処理学会誌2008年6月号「プログラミング・コンテスト EPOCH 報告」をご参照いただきたい。

■ 香川県

香川県では、香川大学工学部が1998年に設置され、情報系の学科も開設され、活発な活動が続いている。平成20年度は、情報処理学会が協賛するソフトウェア・シンポジウム2008が、6月にサンポート高松で開催され、

モデリングや組込みなど、8つのワーキンググループに分かれて、活発な討議が行われた。研究会については、2008年3月に、工学部でエンタテインメントコンピューティング研究会が開催され、2日間にわたって18件の研究発表が行われた。また、四国支部が主催・共催する講演会も、関東や関西から講演者を招き、7月に「組込みシステム開発最前線」と「オープンソースの教育利用の意義」の2件、10月に「プログラムの地域性～プログラムにも国籍がある～」の1件が開催され、多くの聴講者を集めた。電気関係学会四国支部連合大会にも学生への参加を呼びかけ、次世代の研究者、技術者の養成にも力を入れている。今後も、四国内外および世代を繋ぐ人の交流を幅広く深めるような活動を行っていききたい。

■ 高知県

高知県は古くから農林漁業主体であったため、いわゆる重厚長大型の産業基盤がなく、IT基盤整備やそれに関する研究も遅れがちであった。国立大学への情報系学科整備も、理学部への設置という形となっている。

自然科学の一分野としての情報科学として、取り組んでいる研究テーマのひとつに、地球環境情報学がある。この研究の中心にある「高知大学気象情報頁」(Webページ)からは、1998年からの累積で30TBに及ぶデータがダウンロードがされている。また、工学系分野においても、電気関係学会四国支部連合大会において半導体・回路設計や、ファジィ制御などの分野で活発な研究発表が行われている。

最後に、四国支部は平成19年度個人会員330名、対全会員数比1.6%という最小規模の支部である。これが、1990年当時は3%程度であったと聞いているので、長期的減少傾向にある。このような現状打開のために、たとえば「ふるさと支部会員登録制度」などを考えていただけないだろうか。それはともかく、支部結成20周年を迎える本年は、支部活性化のためイベントなどを企画しているところでもある。

謝辞 本稿をまとめるにあたり、ご協力をいただいた徳島大学松浦健二氏、愛媛大学宇戸寿幸氏、香川大学富永浩之氏に感謝する。

(平成21年1月30日受付)

クイズの正解は、

①香川県、②徳島県、③愛媛県、④高知県。

菊地時夫 (正会員)

tkikuchi@is.kochi-u.ac.jp

1981年北海道大学大学院理学研究科修了。現在、高知大学教育研究部自然科学系教授。平成20年度より本会四国支部長。